

我々は東北で何ができるのか？ ～第2次調査訪問を終えて～

ATAC運営委員長 梶原 孝生



東北を襲った地震と巨大津波、そして福島原子力発電所の放射能漏洩事故が起こって早や2年が経とうとしています。昨年、ATACは『我々は東北でどんな支援が出来るのか？』を巡って色んな検討を続けてきました。9月下旬には、メンバーの3名の予備調査隊が宮城県、岩手県の各県庁の関係部署を訪れて現状把握に努め、更にその調査結果に基づいて第2次調査隊計18名が12月に仙台市、石巻市を訪問しました。沿岸地区は復興が遅々として進まず、まだ‘瓦礫の除去’と‘地盤沈下の修復’の最中で、大多数の住民



の皆さんが仮設住宅に住んでおられる状況です。痛ましい大川小学校も訪れ、幼い御霊が安らかに極楽往生されることを全員でお祈りしました。

沿岸部に比して津波被害が無かった内陸部は、既に殆ど復興したかに見える状況でした。

‘みやぎ工業会’の特別のお計らいで、仙台市、石巻市のそれぞれで特に元気な企業を見学する機会に恵まれました。調査訪問の合間に見学した2社についてご紹介します。

＜株式会社ケディカ＞

創業：昭和21年、仙台市にて設立
 資本金：4800万円
 年商：230,000万円（2008年度決算）
 国内従業員数：159名（北上工場含）
 海外工場：フィリピン



ケディカ社は仙台市の泉パークタウン工業団地の中にあって、特に信頼性が要求される精密加工部品・自動車部品・電子部品等の

メッキで市場から高い評価を得ている企業で、平成19年には経済産業省・中小企業庁の「元気なモノづくり中小企業300社」にも選ばれました。



地震では従業員の家族被災や顧客の休業などで、工場を一時的に休止することもあり、更に半導体不況もあって非常に苦労されたそうですが、「自発的に行動する人材が市場からの信頼を生む」という信念のもと、社員教育に力を入れておられる点が印象に残りました。三浦社長様が東北・北海道のメッキ業界会長を務め、‘メッキは近距離が馴染む仕事’だから「何とか地域活性化に貢献して頑張りたい」と奔走されているご様子を伺い、多大の感銘を受けました。

<株式会社 堀尾製作所>

創業：昭和43年、埼玉県にて設立
 資本金：2000万円
 年商：135,400万円
 国内従業員数：52名
 海外工場：中国大連、中国深洲

堀尾製作所は石巻市の内陸部にある精密亜鉛ダイキャスト専門メーカーで、高精度小型部品の品質に‘金型鋳造品の良し悪し’が最



も大きな影響を及ぼしている点に着目し、精密設計と独自の製作ノウハウを深耕し、更に自動検査機器や二次加工自動機を開発するなどして顧客ニーズにこたえる高品質の提案型ものづくりを展開しています。DVDレコーダーの光ピックアップ部品（亜鉛合金）では世界シェアの30%を占め、平成8年には「元気なモノづくり中小企業300社」に選ばれています。地震では設備的・人的被害は少なかったものの、顧客からの受注減で一時生産量がかなり落ちたそうです。堀尾社長は若い頃に関西（姫路）の企業に勤務されていたご経験もあり、今後ATACが橋渡しして尼崎や堺のモノづくり中小企業との新たなコラボ関係が生まれることもあるのでは？とATACの支援の在り方に夢を膨らませながら仙台空港をあとにしました。



2012.12.6

～～編集後記～～

川端康成の「雪国」国境の長いトンネルを抜けると雪国であった・・・。

安倍政権が発足して、経済再生戦略、脱デフレ金融政策や企業設備投資減税などの諸施策が次々と打ち出され、やっと明るい兆しが見えてきましたが、スピーディな実行で実効を期待したい。中小企業の経営者には、企業活性化に向けた経営課題への挑戦と強力なリーダーシップが求められています。ATACでは総力を挙げてご支援しますのでお気軽にご相談下さい。（多根井記）